

厄病除けの神様・牛頭天王

引間 隆文

今回から文化新聞の紙面の片隅をお借りして「That's きつとす」の連載がスタートいたします。このコラムは、平成 13(2001)年 5 月から別の媒体で連載していましたが、この度、文化新聞にお引越しとなりました。これからは月に一度、当館の学芸員が、飯能の歴史・文化・自然についてのコラムをお届けいたします。今後とも「That's きつとす」をどうぞごひいきに。



竹寺
牛頭天王の護符

今年は「コロナ禍の年」として後世の歴史家たちに記録されることとなりそうです。当館も休館やイベント中止など対応に追われました。医療の発達した現代ですらこの有様ですから、昔の人々にとって疫病がいに恐ろしかったかは想像に難くありません。疫病に立ち向かう術は限られていましたので、結局は、神仏に祈るぐらいしかありませんでした。

飯能に縁の深い疫病除けの神様と言えば牛頭天王が挙げられます。インド由来との説もありますが、後に様々な信仰と習合したため、複雑で謎多き神様です。牛の頭を頂き斧を持つその恐ろしい姿から、疫病をも退散させる強力な神様として広く信仰を集めました。

牛頭天王信仰の中心の一つであった京都の祇園社(現・八坂神社)では、現在、トゲのある赤い玉(新型コロナウイルス?)を神様が退治しているイラストが描かれた疫病退散の絵馬を期間限定で頒布しています。絵馬の写真を見て「怖い姿?」と思われた方もいるかもしれません。実は、明治時代の神仏分離の際、全国各地

で仏教色の強い牛頭天王はスサノオノミコトなど別の神様に、社名も祇園社から「八坂神社」や「八雲神社」などに改められてしまいました。広く信仰されていた牛頭天王ですが、表舞台からあっさりと姿を消してしまったのです。

ところが、そんな激動の歴史をかいくぐり現在も牛頭天王を祀っているのが飯能市大字南の竹寺(医王山薬寿院八王寺)です。竹寺は、飯能を代表する「観光スポット」として、またS級グルメにも選ばれた「グルメスポット」として有名ですが、牛頭天王を今もお祀りしている全国的に見ても珍しい「パワースポット」でもあります。明治時代の神仏分離の際、竹寺でも一時は別の仏様に改めたのですが、なぜか旧に復しています。その理由は不明ですが、もしかしたら当地の

人々の崇敬の念がひととき強かったのかもしれませんが。

医療の進んだ現代でも未知のウイルスが相手となれば、神仏の加護を願いたくなる時もあるかもしれません。そんな時は、歴史の荒波を乗り越えた竹寺の牛頭天王を詣でてみてはいかがでしょうか。そうそう、参拝の際はマスク着用など感染拡大防止対策もお忘れなく。



新型コロナウイルス退散祈願の絵馬
右：三井寺(大津市)
左：八坂神社(京都市)